



2023年3月期 決算説明会

株式会社SUBARU

代表取締役社長 CEO 中村 知美

2023年5月11日

皆さま、こんにちは。SUBARUの中村でございます。

本日はお忙しい中、
株式会社SUBARU 2023年3月期 決算説明会にご参加頂き、
誠にありがとうございます。

また、平素は弊社の事業活動につきまして、多大なるご理解・ご支援を賜り、
重ねて御礼申し上げます。

本日はまず私より、2023年3月期の決算の全体概況をお知らせし、
その後、CFOの水間より、決算の詳細をご説明いたします。

最後に、3月3日に次期社長としてご紹介させていただいた大崎より
改めてご挨拶と、電動化計画の現状について
簡単にご説明させていただきます。

■ 2023年3月期 実績

- 生産台数: **874千台** (対前年20%増)
年度を通じて半導体を中心とした部品供給課題が継続したものの、柔軟に生産計画を調整するなど影響の最小化に努め、**前年を上回る実績**
- 営業利益: **2,675億円** (対前年196%増)
原材料価格の高騰の影響は大きく受けたものの、米国を中心に堅調に推移する販売モメンタムとともに円安のプラス影響が加わり、**前年に対し増益**

■ 2024年3月期 見通し

- 生産台数: **1,010千台** (対前年16%増)
半導体を中心とした部品供給課題は継続するものの、各種取り組みを推し進めることで、生産台数は**コロナ前の水準の1,000千台レベルへ引き上げ**
- 営業利益: **3,000億円** (対前年12%増)
円高のマイナス影響や原材料価格高騰の影響は残るものの、重点市場の米国を中心に販売伸長を見込み、営業利益は**コロナ前を超えるレベルを目指す**

■ 自己株式の取得および消却について

400億円を上限とした自己株式の取得および消却

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

2

はじめに、2023年3月期実績、2024年3月期見通しのポイントについてご説明いたします。

まずは2023年3月期実績です。
生産台数および営業利益については、前年を上回る結果となりました。

生産台数につきましては、半導体を中心とした部品供給課題が継続する中、柔軟に生産計画を調整するなど、影響の最小化に努め、前年を20% 上回る結果となりました。

営業利益につきましては、原材料価格の高騰の影響は大きかったものの、米国市場を中心とした堅調な販売モメンタムが継続していることに加え、円安のプラス影響もあり、前年に対して増益となりました。

続きまして、2024年3月期見通しです。
生産につきましては、最悪期は脱したものの、半導体を中心とした部品供給課題は継続すると見ております。こういった状況ではありますが、調達、製造部門を中心に各部門の取り組みを推し進めることで生産台数は、コロナ前の水準である100万台レベルへ引き上げたいと考えております。

営業利益につきましては、為替が円高方向に進むことによるマイナス影響や原材料価格高騰の影響が継続するものの重点市場である米国を中心に販売台数の伸長を見込み、コロナ前の営業利益を越える、3,000億円を目指します。

また、詳細は後ほどCFOの水間よりご説明いたしますが、資本効率の向上を目的としてこの度、400億円を上限に自己株式の取得および消却を行います。

	通期実績					通期計画	
	2022年3月期 実績(a)	2023年3月期 前回計画(b)*	2023年3月期 実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)	2024年3月期 (d)	増減 (d)-(c)
連結販売台数 (千台)	734	870	852	+118	-18	1,010	+158
生産台数 (千台)	727	880	874	+147	-6	1,010	+136
売上収益	27,445	37,000	37,745	+10,299	+745	42,000	+4,255
営業利益	905	3,000	2,675	+1,770	-325	3,000	+325
親会社の所有者に帰属する 当期利益	700	2,100	2,004	+1,304	-96	2,100	+96
為替レート US\$	¥112	¥134	¥135	+¥23	+¥1	¥128	-¥7

* 2023/2/8 発表値

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

3

つづきまして

2023年3月期通期業績ならびに2024年3月期通期見通しの概観について
それぞれ簡単にご説明いたします。

まずは2023年3月期通期業績です。

売上収益を除く、販売台数、生産台数および、各段階利益は
前回計画値を下回りましたが、いずれも、3期ぶりに前年を大きく上回る結果となりました。

こういった実績を踏まえると、

コロナ禍からの「回復の手ごたえ」を感じた1年になったのではないかと評価しております。

続きまして2024年3月期通期業績です。

先ほど申し上げました通り、
生産台数、販売台数および営業利益を始めとした各段階利益については、
コロナ前の水準を指標と置き、達成に向けて取り組んでまいります。

2020年以降、コロナ感染拡大から半導体をはじめとする部品供給課題など
厳しい状況が継続いたしました。

一方で、様々な課題に対して、部門の垣根を超えて対処し、
難局を乗り越えよう、といった社内における意識改革や業務変革も推進され、
変化に強い体制へと強化を図ることができたと考えています。

今年度も、引き続き全社一丸となり、

1台でも多くのクルマを、1人でも多くのお客様にお届けすることで、
「笑顔を作る会社」の実現に向け、着実に歩(あゆみ)を進めてまいりたいと考えております。

これからもご支援のほど、よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。

続きましてCFOの水間より、決算の詳細につきましてご説明させていただきます。



2023年3月期 決算説明会

株式会社SUBARU

取締役専務執行役員 CFO 水間 克之

2023年5月11日

2023年3月期 実績

通期実績 連結完成車販売台数・生産台数

(千台)

	2022年3月期 通期実績(a)	2023年3月期 前回計画(b)	2023年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
米国生産	272	-	299	+27	-
国内生産	455	-	575	+120	-
生産台数* 合計	727	880	874	+147	-6

	2022年3月期 通期実績(a)	2023年3月期 前回計画(b)	2023年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
連結完成車販売台数 合計	734	870	852	+118	-18

*トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

6

皆さま、こんにちは。SUBARUの水間でございます。
はじめに、2023年3月期 通期実績をご説明します。

2021年初から継続する半導体供給課題に対し、
柔軟な生産計画の調整など、調達・製造部門をはじめとする各部門の取り組みにより、
影響の最小化に努めてまいりました。

特に第4四半期は一部の部品用半導体の不足による操業への影響が大きく出ましたが、
生産台数は、前年度に対し14万7千台の増となる87万4千台、
連結販売台数は、グローバルで11万8千台の増となる85万2千台となりました。

通期実績 連結完成車販売台数（市場別）

（千台）

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
登録車	73	81	+9
軽自動車	17	19	+2
国内合計	89	100	+10
米国	506	592	+85
カナダ	49	43	-6
欧州	15	23	+8
豪州	33	44	+11
中国	14	10	-4
その他	27	41	+13
海外合計	645	753	+108
合計	734	852	+118

市場別連結販売台数実績についてはご覧の通りです。

主要市場である米国での需要は強く、対前年で8万5千台の増となりました。リテーラーをはじめとするバリューチェーン全体での高効率な販売により、お待ちしておりますお客様の需要に応じてまいりました。

通期実績 連結業績

(億円)

	2022年3月期 通期実績(a)	2023年3月期 前回計画(b)	2023年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
売上収益	27,445	37,000	37,745	+10,299	+745
国内	4,880	-	5,810	+929	-
海外	22,565	-	31,935	+9,370	-
営業利益	905	3,000	2,675	+1,770	-325
税引前利益	1,070	3,000	2,784	+1,714	-216
親会社の所有者に帰属する 当期利益	700	2,100	2,004	+1,304	-96
為替レート US\$	¥112	¥134	¥135	+¥23	+¥1
EURO	¥130	¥140	¥141	+¥11	+¥2
CAN\$	¥89	¥102	¥102	+¥13	+¥0

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

8

続いて、連結業績です。

売上収益は、

販売台数増や販売価格改定等による売上構成差等+5,289億円、
為替レート差+4,905億円により、
前年度比1兆299億円の増収となる3兆7,745億円となりました。

営業利益は、前年度比1,770億円の増益となる2,675億円となりました。

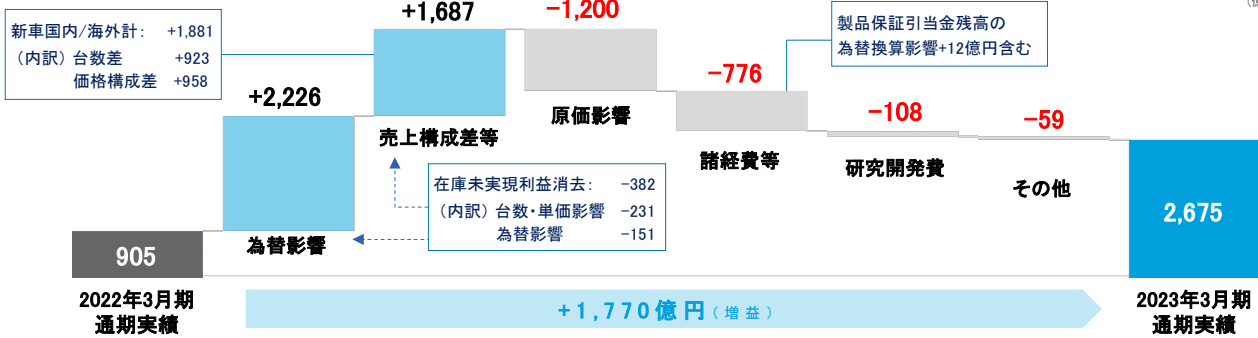
税引前利益は1,714億円の増益となる2,784億円、

親会社の所有者に帰属する当期利益は1,304億円の増益となる2,004億円となりました。

また、ROEは前期末に対し6.2ポイントの上昇となる10%となりました。

前年実績対比
通期実績 営業利益増減要因

(億円)



為替影響	+2,226	売上構成差等	+1,687	原価影響	-1,200	諸経費等	-776	研究開発費	-108	その他	-59	2022年3月期 通期実績	905	2023年3月期 通期実績	2,675
US \$	+2,268	新車国内	+141	SUBARU	-853	SIA *1	-347	製造固定費	-159	販管費	-170	保証修理費	-447		
EURO	+33	新車海外	+1,740	原価低減	+41	原価低減	+10	SUBARU	-153	SIA *1	-6	SUBARU	-199	(為替換算影響含む)	
CAN \$	+93	販売奨励金	-159	原材料・市況等	-894	原材料・市況等	-357	外製型費	-81	外製型費	+13	国内ディーラー	-9		
中国元	-3	その他	-35					固定加工費	-72	固定加工費	-19	SOA *2	-3		
仕入為替調整	-14											SCI *3	-7		
未実現利益分	-151											その他	+48		

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

9

次に、営業利益増減要因についてです。

主な増益要因は、為替影響と売上構成差等の改善です。

売上構成差等は、販売台数の増加および販売価格の改定等により+1,687億円となりました。

為替影響は、USDドル約23円の円安を主因とし+2,226億円となりました。

一方で在庫台数の増加に加え、台当たり単価上昇の影響、為替影響により、未実現利益消去額が増加し、-382億円の減益要因となりました。

うち為替影響が-151億円です。

主な減益要因は、

年度後半にかけて、徐々に貴金属価格は落ち着いて来ているものの、

その他原材料・市況の高騰と、エネルギー費等の高騰によるお取引先の皆様の負担軽減対応により原価影響で-1,200億円となりました。

また、諸経費等で-776億円となりました。

米国市場向け販売奨励金については、

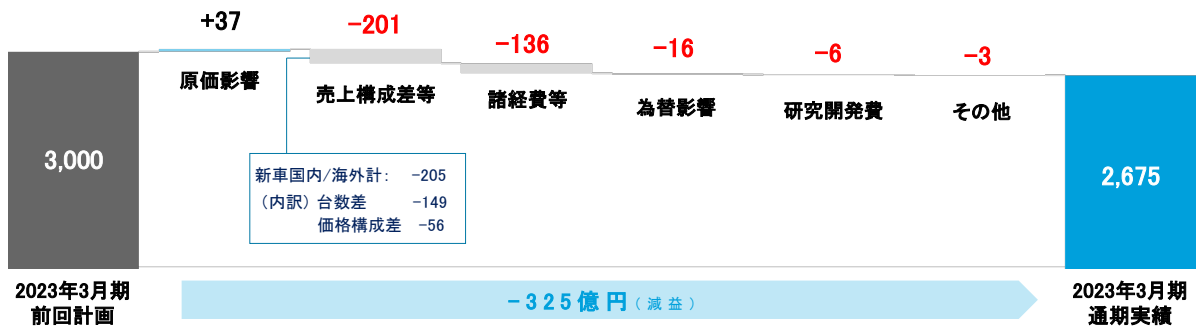
前年度の台当たり700ドルに対し200ドル増となる900ドルとなり、

奨励金総額としては205億円の増加となりました。

前回計画(2/8発表値)対比

通期実績 営業利益増減要因

(億円)



原価影響	+37	売上構成差等	-201	諸経費等	-136	為替影響	-16
SUBARU	+76 SIA *1	-39 新車国内	-32 製造固定費	+40 販管費	+1 保証修理費	-177 US \$	+24
原価低減	+3 原価低減	+8 新車海外	-173 SUBARU	+32 SIA *1	+8 SUBARU	-8 (為替換算影響含む)	EURO +10
原材料・市況等	+73 原材料・市況等	-47 販売奨励金	+21 外製型費	+4 外製型費	-4 国内ディーラー	-3	CAN \$ -7
		その他	-17 固定加工費	+28 固定加工費	+12 SOA *2	+40	中国元 -2
					SCI *3	+3	仕入為替調整 -16
					その他	-31	未実現利益分 -25

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

次に、前回計画値からの営業利益増減要因です。

営業利益3,000億円の達成に向けて、全社をあげて取り組んでまいりましたが、販売台数減に伴う売上構成差等の悪化や諸経費等の増加を主因とし、前回計画に対し325億円減となる2,675億円となりました。

キャッシュフロー / 手元資金状況

(億円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	
営業活動によるCF	1,957	5,038	
投資活動によるCF	-1,797	-3,368	
フリーCF	159	1,669	
財務活動によるCF	-985	-1,223	
現金及び現金同等物の為替影響額	583	518	
	2022年3月末	2023年3月末	増減
現金及び現金同等物 期末残高	8,831	9,795	+965
有利子負債 期末残高 *	3,340	3,126	-214
ネットキャッシュ	5,490	6,669	+1,179

*リース負債は上記の実績に含んでおりません。

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

11

次にキャッシュフローおよび手元資金の状況です。

フリーキャッシュフローは1,669億円となりました。

現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に対し965億円増となる9,795億円となりました。

そのうち、USD建て預金等の為替換算影響518億円を含みます。

有利子負債残高は、前期末に対し214億円減の3,126億円となりました。

その結果、ネットキャッシュは前期末に対し1,179億円増の6,669億円となりました。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2022年3月期 通期実績(a)	2023年3月期 前回計画(b)	2023年3月期 通期実績(c)	増減 (c)-(a)	増減 (c)-(b)
設備投資 *1	861	1,300	1,228	+367	-72
減価償却費 *1	946	1,000	1,030	+84	+30
研究開発支出 *2	1,138	1,100	1,078	-60	-22

*1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

*2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。

尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見積耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

設備投資などの実績については、ご覧の通りです。

2024年3月期 見通し

通期計画 連結完成車販売台数・生産台数

(千台)

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期計画	増減
米国生産	299	-	-
国内生産	575	-	-
生産台数* 合計	874	1,010	+136

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期計画	増減
連結完成車販売台数 合計	852	1,010	+158

* トヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

14

続いて、2024年3月期 通期計画についてご説明します。

半導体供給におけるリスクは依然として残っておりますが、
徐々に回復していくことを見込み、
また、各市場でのSUBARU車に対する需要の力強さが続くことを見通して、
コロナ前の生産水準に戻していきたいと考えております。

生産台数については、前年度に対し13万6千台の増となる101万台、
連結販売台数については、前年度に対し15万8千台の増となる101万台を計画いたします。

通期計画 連結完成車販売台数（市場別）

（千台）

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期計画	増減
登録車	81	107	+26
軽自動車	19	19	+1
国内合計	100	126	+27
米国	592	664	+73
カナダ	43	65	+22
中国	10	14	+4
その他	108	141	+33
海外合計	753	884	+131
合計	852	1,010	+158

市場別の連結販売計画につきましては、ご覧の通りです。

グローバル全体で需要が強いことから、米国を中心にカナダ・その他地域に向けて出荷を増やしていく予定です。

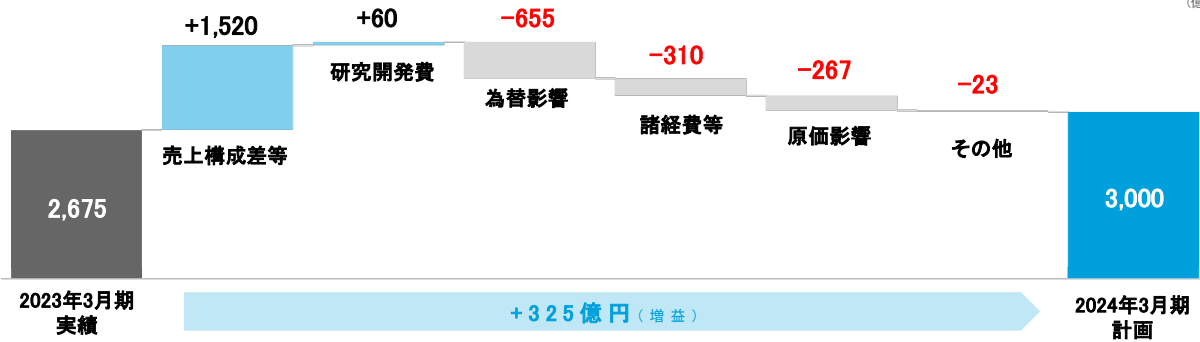
	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期計画	増減
売上収益	37,745	42,000	+4,255
営業利益	2,675	3,000	+325
税引前利益	2,784	3,000	+216
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,004	2,100	+96
為替レート US\$	¥135	¥128	-¥7
EURO	¥141	¥138	-¥3
CAN\$	¥102	¥94	-¥8

続いて、連結業績です。

USドル前提を上期130円、下期125円、通期128円とし、
売上収益は、前年度に対し4,255億円増となる4兆2,000億円、
営業利益は325億円増となる3,000億円、
税引前利益3,000億円、親会社の所有者に帰属する当期利益2,100億円を計画します。

前年実績対比
通期計画 営業利益増減要因

(億円)



売上構成差等	+1,520	為替影響	-655	諸経費等	-310	原価影響	-267						
新車国内	+155 US \$	-768	製造固定費	-23	販管費	-283	保証修理費	-4	SUBARU	-385	SIA *1	+118	
新車海外	+1,368 EURO	-4	SUBARU	+8	SIA *1	-31	SUBARU	-109	(為替換算影響含む)	原価低減	+28	原価低減	+18
販売奨励金	-345 CAN \$	-96	外製型費	+56	外製型費	+37	国内ディーラー	-30		原材料・市況等	-413	原材料・市況等	+100
その他	+342 中国元	+1	固定加工費	-48	固定加工費	-68	SOA *2	-76					
	仕入為替調整	-125				SCI *3	-18						
	未実現利益分	+337				その他	-50						

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.
<https://www.subaru.co.jp/ir/>

次に、前年実績対比の営業利益増減要因についてご説明します。

主な増益要因は、
連結販売台数15万8千台の増加により売上構成差等で1,520億円の改善を図ります。

主な減益要因は、
USD約7円の円高を主因とする為替影響-655億円、
販売台数増に伴い諸経費等で-310億円を見込んでいます。
また、市況が軟化してきている一方で、特に国内のお取引先の皆様のエネルギー費高騰等に伴う負担の軽減を織り込み、原価影響で-267億円となる予定です。

米国市場向け販売奨励金については、
前年の台当たり900ドルに対し200ドル増となる1,100ドルとなり、
奨励金総額としては249億円の増加となる見通しです。

設備投資・減価償却費・研究開発支出

(億円)

	2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期計画	増減
設備投資 *1	1,228	1,800	+572
減価償却費 *1	1,030	1,000	-30
研究開発支出 *2	1,078	1,200	+122

*1 リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含んでおりません。

*2 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載。
尚、IFRSでは当該支出のうち資産性の認められる一部の支出を無形資産として計上し、見積耐用年数に基づき償却するため、連結損益計算書上の「研究開発費」と異なります。(日本基準における連結損益計算書上の研究開発費と一致)

設備投資・減価償却費・研究開発支出については、ご覧の通りです。

今期から、2022年5月に発信した国内生産体制再編に伴う設備投資を本格的に開始するため、設備投資は1,800億円を計画いたします。

株主還元

➤ 一株当たり配当金

	2023年3月期	2024年3月期 予想
第2四半期末	38	38
期末	38	38
年間合計	76	76

➤ 自己株式の取得

取得株数	2,200万株(上限)
取得金額	400億円(上限)
取得期間	2023年9月末日まで

➡ 2023年3月期 総還元性向: 49.1%

* 取得する自己株式は全数消却予定

最後に、株主還元についてです。

足元の業績や経営環境、将来の資金需要などを総合的に勘案し、本日開催の取締役会において、自己株式取得に関する決議を致しました。資本効率の向上を目的として、400億円を上限に実施し、全数消却する予定です。2023年3月期の配当金を、直近予想の通り、年間76円とし、配当金・自己株式取得を合わせた2023年3月期の総還元性向は、49%となる見通しです。

なお、2024年3月期の1株当たり配当金の予想は、2023年3月期と同額の76円としております。

今後も皆様方のご期待に沿うことができるよう取り組んでまいりますので、引き続き当社へのご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



電動化計画の現状

株式会社SUBARU

取締役専務執行役員 大崎 篤

2023年5月11日

皆さま、こんにちは。

SUBARUの大崎でございます。

3月の記者会見でご挨拶を申し上げましたが、

6月21日の株主総会を経て、弊社の代表取締役社長に就任を予定しております。

改めまして、今後よろしくお願いいたします。

さて、新しい経営体制のスタートに向けて、

副社長に就任予定の早田や、次の時代を担うメンバーと共に、

当社の将来に向けて様々な議論を進めています。

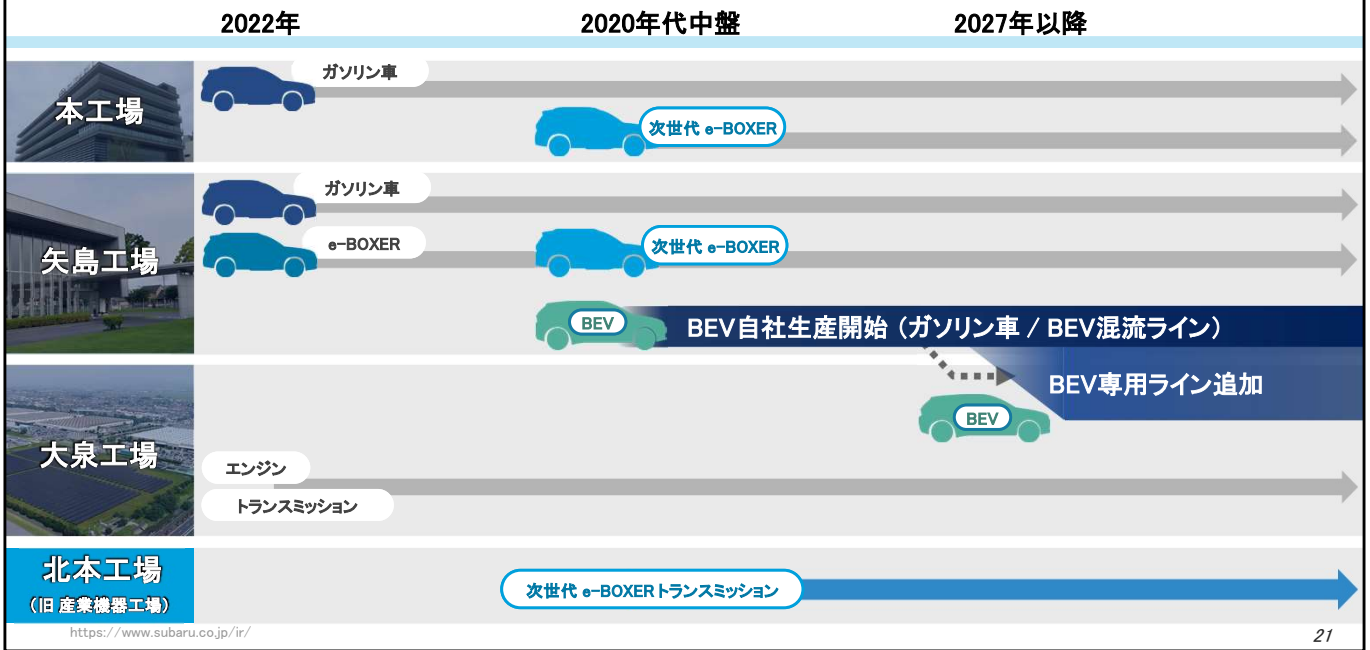
その内容については、しかるべきタイミングで、

改めてお話しする機会を設けたいと考えておりますが、

本日は、昨年5月に公表した、当社の電動化に向けた

国内生産体制再編計画について、現時点の進捗状況と変化点を、

私から簡単にご報告いたします。



まずは昨年5月に発表しました内容の振り返りです。

「国内生産体制の戦略的再編」と題して、

3つの工場の生産体制の再編についてお話ししました。

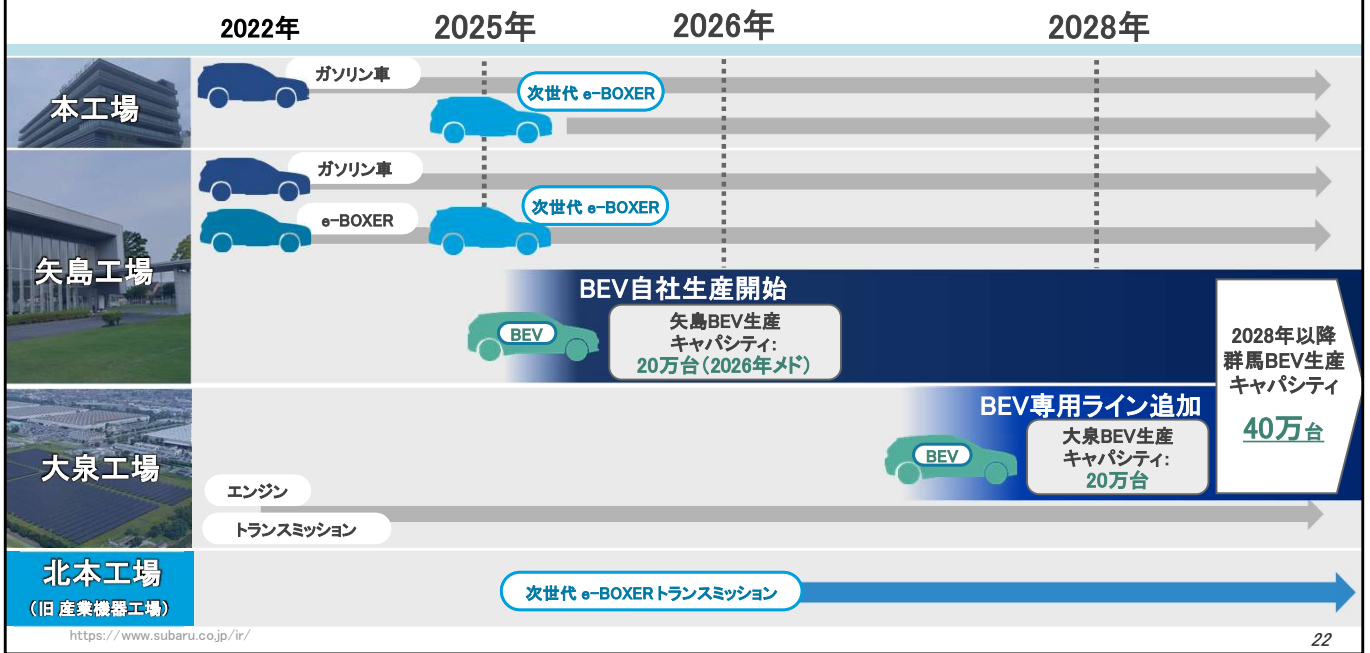
1つ目は、2020年代中盤のTHS（トヨタハイブリッドシステム）を採用した次世代e-Boxerトランスミッションの北本工場への生産移管です。

2つ目は、2025年付近の矢島工場での混流生産ラインによるバッテリーEVの自社生産開始です

3つ目は、2027年以降の大泉工場でのバッテリーEV専用ラインの立ち上げです。

まずはその進捗について少しお話しします

国内生産体制の戦略的再編（アップデート）



国内生産体制については2つの変化点があります。

1つ目は、次世代e-Boxer車両の生産時期についてです。
 昨年の発表時は、「2020年代中盤での投入」としていましたが、
 現在、生産開始時期を2025年と定めて準備を進めています。

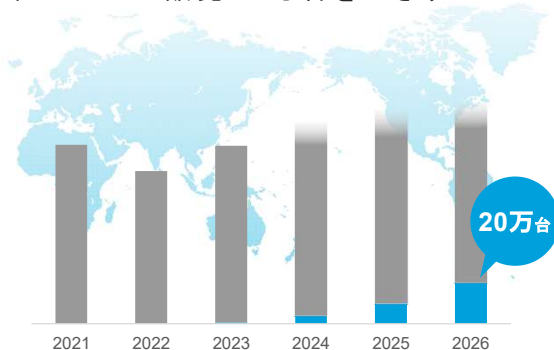
2つ目は2025年付近に矢島工場で開始予定の、バッテリーEVの生産についてです。
 規制動向やマーケットの動きに合わせて、
 変化により柔軟に対応できるバッテリーEVの生産体制を構築することで、
 矢島工場のバッテリーEVの生産キャパシティを
 当初計画の年間10万台から、26年頃を目途に20万台へ引き上げられるよう
 準備を進めています。

結果として、2028年以降のバッテリーEVの生産キャパシティは
 新規に立ち上げる大泉工場の生産キャパシティを加えて、
 40万台規模を見込んでいます。

いずれにしても、昨年から公表しております一連の生産体制再編は、
 規制やマーケットの動向を注視しつつ
 バッテリーEV、HEV、ガソリン車の生産比率を
 ”柔軟”に変更できる生産体制を構築することが狙いとなります。
 一方で先行きが見えてきた段階では、一気に”拡張”させていくことも重要であり
 こういった「柔軟性と拡張性」の考え方を軸に、難しい時代を乗り切っていきたいと考えてい
 ます。

販売台数

26年時点で
グローバル販売20万台をめざす



<https://www.subaru.co.jp/ir/>

電池調達

トヨタ自動車とのアライアンスを通じて
グローバルで電池を手当



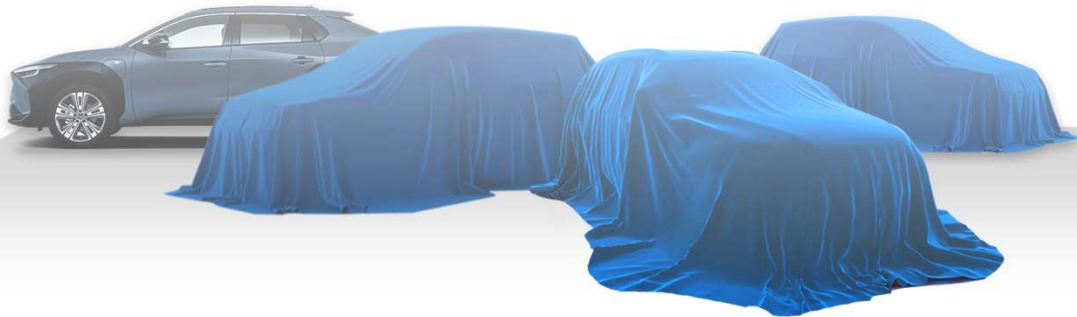
23

続きまして、バッテリーEVの販売台数と電池調達についてです

販売の規模については、2026年時点、
グローバルで20万台の販売を目指していきたいと考えております。

バッテリーEVの販売を支える電池調達に関しましては、
従来の方針通り、トヨタ自動車様とのアライアンスを通じて、
グローバルで電池を手当てしてまいります。

26年末時点で SUV 4車種 ラインアップ予定



※ 画像はイメージです

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

24

最後に、バッテリーEVのラインアップについてです。

現時点では、トヨタ自動車様とのアライアンスにより
バッテリーEV「ソルテラ」を共同開発し、マーケットに投入しています。

このソルテラに加え、3車種のバッテリーEVを投入します。
結果として、
グローバル20万台の販売を実現するバッテリーEVのラインアップは
2026年末時点で4車種となります。

また、新たな3車種のバッテリーEVはSUVカテゴリーに投入し、
当社が強みとしているSUVラインアップを充実させます。

これら新車種の詳細につきましては、後日、改めてお話ししたいと考えています。

私からのご挨拶と電動化に関する進捗のご報告は以上となります。

当社の将来に向け、検討を進めている内容につきましては
改めて、皆さんにお話する機会を設けたいと考えていますので、
よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

ご参考

- ・ セグメント情報（事業別 / 所在地別）
- ・ 海外売上収益
- ・ 連結財政状態計算書
- ・ 単独販売台数
- ・ 米国子会社業績
- ・ 第4四半期（3ヵ月）連結業績実績
- ・ 2023年3月期実績（四半期別）
- ・ 生産台数 / 小売台数 推移

通期実績 事業セグメント情報

(億円)

	売上収益				営業利益			
	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	2024年3月期 通期計画	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	2024年3月期 通期計画
自動車	26,775	36,906	+10,131	40,907	925	2,633	+1,707	2,962
航空宇宙	623	790	+167	1,045	-70	-21	+49	17
その他	48	49	+1	48	48	63	+15	21
消去・全社	-	-	-	-	1	0	-1	-
合計	27,445	37,745	+10,299	42,000	905	2,675	+1,770	3,000

通期実績 所在地別セグメント情報

(億円)

	売上収益			営業利益		
	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
日本	6,663	8,437	+1,774	-195	1,967	+2,162
北米	19,688	28,014	+8,326	1,109	1,105	-4
その他	1,094	1,294	+200	29	-10	-39
消去・全社	-	-	-	-39	-387	-348
合計	27,445	37,745	+10,299	905	2,675	+1,770

通期実績 海外売上収益

(億円)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
北米	20,040	28,451	+8,411
欧州	642	867	+224
アジア	734	914	+180
その他	1,149	1,704	+555
合計	22,565	31,935	+9,370

連結財政状態計算書

(億円)

	2022年3月末	2023年3月末	増減
資産合計	35,438	39,442	+4,004
流動資産	20,422	24,298	+3,875
非流動資産	15,015	15,144	+129
負債合計	16,427	18,342	+1,915
有利子負債	3,340	3,126	-214
資本合計	19,010	21,099	+2,089
利益剰余金	14,663	16,237	+1,574
親会社の所有する帰属持分	18,908	21,010	+2,102
親会社の所有者に帰属する持分比率	53.4%	53.3%	-0.1%
D/ELシオ	0.18	0.15	-0.03

通期実績 単独販売台数

(千台)

	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
国内生産*	455	575	+120
国内売上	90	105	+14
登録車	73	85	+12
軽自動車	17	20	+3
輸出台数	371	469	+98
海外生産用部品	308	307	-1
単独合計売上	769	880	+112

*トヨタ向けGR86の台数を含む

通期実績 米国子会社業績

(Million US\$)

SOA *1	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
売上高	16,257	19,500	+3,243
営業利益	1,095	868	-227
当期純利益	852	648	-204
小売販売台数(千台)	553	565	+12
SIA *2	2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減
売上高	7,109	8,469	+1,360
営業利益	-260	-120	+140
当期純利益	-212	-72	+140
生産台数(千台)	272	299	+27

*1 SOA: Subaru of America Inc. *2 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

第4四半期(3ヵ月)実績 連結完成車販売台数(市場別)

(千台)

	2022年3月期 4Q実績	2023年3月期 4Q実績	増減
登録車	19	19	+0
軽自動車	5	5	-0
国内合計	24	24	-0
米国	135	155	+20
カナダ	10	10	-0
欧州	3	9	+5
豪州	7	10	+4
中国	3	2	-1
その他	5	8	+3
海外合計	163	193	+31
合計	187	217	+31

第4四半期(3ヵ月)実績 連結業績

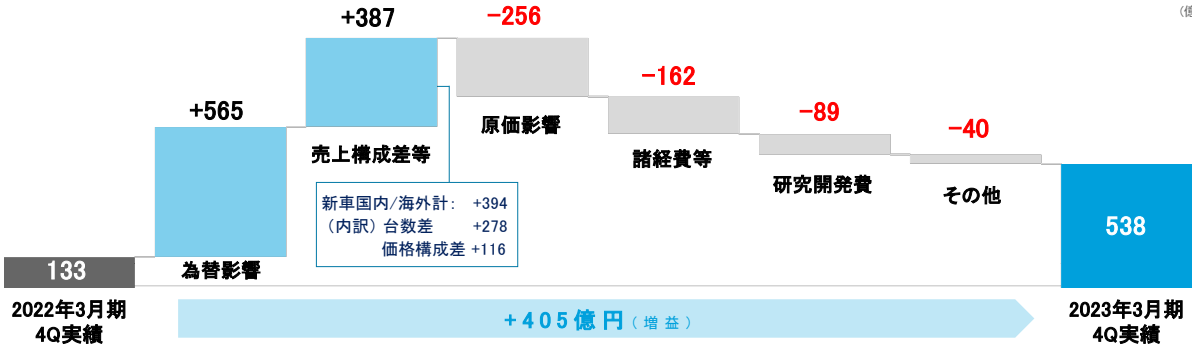
(億円)

	2022年3月期 4Q実績	2023年3月期 4Q実績	増減
売上収益	7,370	9,665	+2,295
国内	1,423	1,491	+68
海外	5,947	8,173	+2,226
営業利益	133	538	+405
税引前利益	157	632	+475
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	71	460	+389
為替レート US\$	¥115	¥133	+¥18
EURO	¥130	¥142	+¥13
CAN\$	¥90	¥98	+¥8

前年実績対比

第4四半期(3ヵ月)実績 営業利益増減要因

(億円)



為替影響	+565	売上構成差等	+387	原価影響	-256	諸経費等	-162							
US \$	+272	新車国内	-11	SUBARU	-165	SIA *1	-91	製造固定費	-47	販管費	-40	保証修理費	-75	
EURO	+13	新車海外	+405	原価低減	+8	原価低減	+4	SUBARU	-23	SIA *1	-24	SUBARU	-67	(為替換算影響含む)
CAN \$	+12	販売奨励金	-118	原材料・市況等	-173	原材料・市況等	-95	外製型費	-6	外製型費	-9	国内ディーラー	-4	
中国元	-1	その他	+111					固定加工費	-17	固定加工費	-15	SOA *2	+27	
仕入為替調整	-71											SCI *3	-7	
未実現利益分	+340											その他	+11	

*1 SIA: Subaru of Indiana Automotive, Inc. *2 SOA: Subaru of America Inc. *3 SCI: Subaru Canada Inc.

<https://www.subaru.co.jp/ir/>

2023年3月期実績(四半期別)

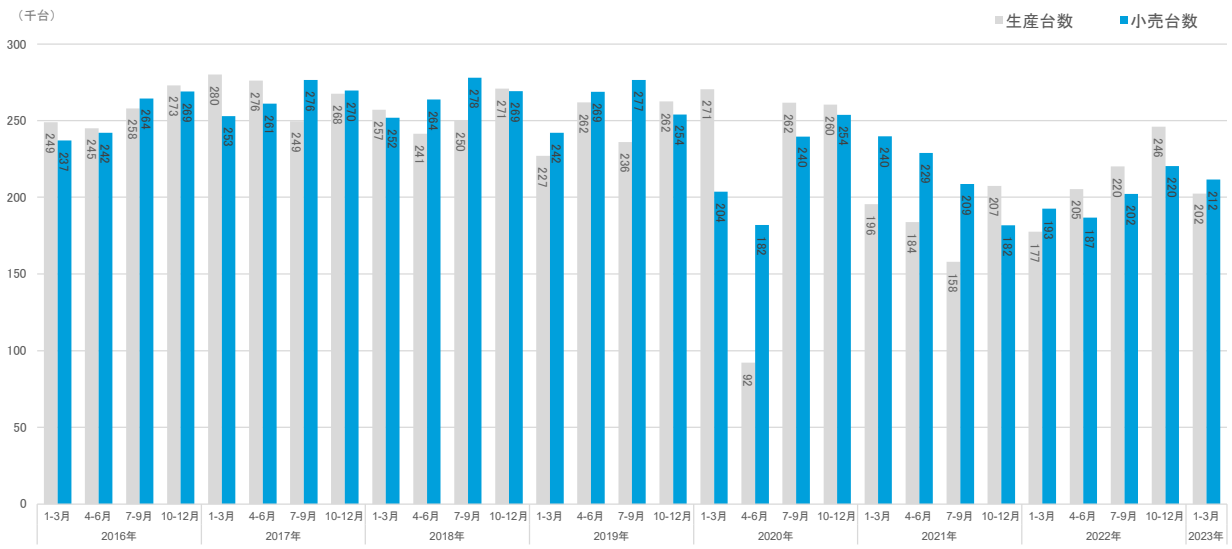
(億円)

2023年3月期

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
連結販売台数(千台)	196	203	237	217
生産台数*(千台)	205	220	246	202
売上収益	8,341	9,168	10,571	9,665
営業利益	370	735	1,032	538
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	272	506	766	460
為替レート US\$	¥125	¥135	¥144	¥133

*トヨタ向けGR86の台数を含む

生産台数 / 小売台数 推移



* 生産台数にはトヨタ向けGR86の台数を含む

<https://www.subaru.co.jp/ir/>



本資料に記載されている計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報、予測に基づいた仮定、および判断であり、様々なリスクや不確実性を含みます。将来における当社の実際の業績は、当社を取り巻く経済情勢、需要や為替レートの変動などにより、これらと異なる結果となる場合がございます。投資に関する最終決定は、上記の点を踏まえ、投資家の皆様ご自身の判断で行われるようお願いいたします。本資料に掲載された情報に基づいて投資された結果、万一何らかの損害を被られましても、当社および各情報の提供者は一切責任を負いかねますので、併せてご了承ください。